

ほし 彩星だより 第68号



若年認知症家族会・彩星の会会報

平成26年7月16日

〒160-0022 新宿区新宿1-25-3-302 TEL 03-5919-4185/FAX 03-5368-1956 E-mail:hoshinokai@star2003.jp

ほしまつり 報告



若年認知症家族会・彩星の会世話人 M. Y.

★★★★6月1日に★★★★
新宿区立障害福祉センターで、毎年恒
例の「ほしまつり」が開かれました
★★★★★★★★★★★★★★★★



暑さの影響か、または会場の都合で第4日曜から変更したせいか、例年より参加者が少なかったように感じました。それでも、ご本人、介護家族、サポーターが集まり、64名の参加がありました。

その中には勝野先生の教え子の学生さん10名も参加して頂き、道案内や受け付け、サポートにと大活躍してくれました。

「ほしまつり」は、ご本人と介護家族と一緒に食事をして、会員の方たちと親交を深める場です。また、日ごろお世話様になっているホシサポの皆さんに感謝する場でもあります。

会場には、手作りのシフォンケーキ、パイナップル、お菓子、マドレーヌ、お漬物、お茶が所せ

ましとテーブルに無料で置かれ、窓側のテーブルには、お赤飯、お稲荷さん、おにぎり、サンドイッチが販売されていました。また、その日に実演をする、太巻き寿司も朝早くから作って持ち込んで頂きました。

ホットプレートでは、フランクフルト、ポテトが焼かれ、良い匂いが漂っています。毎回恒例の淹れ立てコーヒーも置かれ、抹茶も点てて頂きました。



彩星の会名物の、ほし市場も開かれ、新鮮な野菜、手作りジャムも販売されました。

皆で歓談をしながらのお食事タイムです。



テーブルでは、最近のこと、介護相談をする人もあれば、ご本人を連れての参加ができなくなりだんだん厳しくなってきた状況を話されているかたもいます。昔話に花も咲きました。上手に食事介助をする方もいて、皆さん温かく見守っています。絶えず笑い声が響き和やかな雰囲気でした。

そろそろおなかもふくれてきたころ、本日の2大イベントの一つ、太巻き寿司体験コーナーが始まりました。参加できる方は8人。でも、家族、学生、サポーターが周りを囲みみんなで楽しむことができました。

先生は”千葉県東金市太巻き寿司研究会”のお二人、食材から調理道具のすべてを持ち込んで頂きました。太巻き寿司は、千葉県房総の伝統郷土料理だということを知っていましたか？節分の時に食べる太巻き寿司とは違います。巻きずしの中に、郷土の花、果物、動物を飾りこみます。



まず先生が、巻き方のコツや順番、材料を説明しながら見本を1本作ってくださいました。先生の手早さに、見とれるほどです。出来上がったお寿司に包丁を入れると、見事なさくらんぼの柄が現れました。全員から大きな歓声が上がりました。

次は会員の番です。見るのとやるのは大違い。四苦八苦しながら全員がさくらんぼとバラを作り上げました。パックに詰めてお持ち帰りです。今日の晩御飯の食卓に並んで、思い出話が咲くでしょう。



次は、もう一つのイベント。手話ダンスのボランティアグループ”アミカ”さん達の登場です。

手話ダンスは、歌詞に手話をつけて踊るダンス。11人で、衣装を変えながら、優雅で美しいダンスを披露してくださいました。言葉を踊りで伝え手話の優しい動きに引き込まれるように見えました。



和やかなムードに、席を立てて踊りに参加するご本人達もいました。皆さん、拍手大喝采です。手話も教えてもらい、皆で踊りました。とても楽しい時間を過ごすことができました。アンコールも出て、大きな拍手でお送りしました。

最後はみんなで歌をうたい、3時間半があっという間に過ぎました。

皆さんの笑顔が素敵です。

たくさんの元気をもらうことができました。

★追記 (初めて、世話人として参加して)

私は今年度から世話人の仲間入りをしました。彩星の会での例会を楽しめるのは、裏方に徹していただいている役員の方たちのおかげと改めて感じています。

今回の「ほしまつり」のために、世話人の方は本当に力を尽していただきました。2度の世話人会で綿密に計画を練り、あらかじめ、何度もお店に出向いて食材、備品の打ち合わせをする。会場の設営、進行の流れ、アトラクションの手配、参加者の誘導、サポート等々。細かいことまで手抜きがないように準備をして、そして食品の安全には細心の注意を払っていました。これは、参加したご本人と介護家族に楽しんで頂くためです。

当日は、買い出し組と会場設営組に分かれ、開始2時間以上前の9時半に集合して準備を行いました。

昨年までの私は、「ほしまつり」には楽しく参加するだけでした。でも皆さんに楽しんで頂くために、こんなに努力をしていたのです。そして、そのことを自慢げに言う人は一人もいません。中に入らないとわからないことでした。

世話人、役員の方のチームワークは素晴らしいです。皆で助け合って参加者の安全、安心、楽しんでもらえるように考えています。ありがたいことです。

私は彩星の会には、これまでたくさんの方に助けて頂きました。まったくの介護初心者だった私に、介護の仕方、制度の使い方、介護を通じて知り合った先輩、友人たちから多くのことを教えて頂きました。

今の私は、61歳になった妻の介護、87歳の母の介護、そして仕事と多くのことを抱えています。でも、これまでお世話になった分の恩返しと思っ、先輩たちに見習い少しでもお役にたちたいと思います。

厳しい環境におかれていますので、無理なく、できる範囲ですがよろしく願いいたします。

(M. Y)



★太巻き寿司に挑戦した感想が事務局に寄せられました

細かいことが好きなので作っていて楽しかった。男性Kさん

きれいでおいしかった。治さん

サクランボの形がよくできた、よくやったと自慢げでした。男性Mさん奥様



★手話ダンスサークル“アミカ”さん

ほし祭りのクライマックスは手話ダンスサークル「アミカ」による公演だった。チームリーダー以下11名全員妙齡?の女性が二つのグループに別れ次々に曲に合わせて手話によるダンスを披露してくれた。

簡単な手話の動きを説明しながら我々にも手の動きで参加できるよう計らってくれる。笑顔を決やさない披露に会員の中から飛び入り参加する女性も現れ会場は爆笑に包まれた。

聞けばアミカは創立20年を迎えこれまで老人ホーム、ホールなどでボランティア公演を重ねてきたらしい。

チームリーダーはショートカットにサスペンダー、黒のパンツスタイルがよく似合い宝塚の男役を彷彿させる身のこなしで会場の雰囲気盛り上げていた。メンバーの服装も曲にあわせて変幻自在に変わりまるで花火大会を見るような思いで皆感動の時間を過ごしていました。

(H. A)

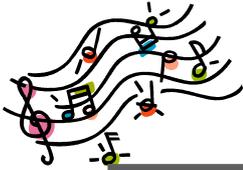


★ “アミカ” さんがブログでコメント

手話ダンスサークル「アミカ」さんに参加されているかたのブログに、“ほしまつり”について次のように書かれていました。

「この暑さの中、手話ダンスのお仲間と新宿若松河田町にいました。彩星の会でのボランティア参加のためです。初めての所でしたが、皆さんに喜んで頂いて私たちの踊りの列に参加して下さったりと一緒に踊ってとても嬉しかったです。」

私たちはボランティアに来てくださった方たちに感謝ですが、アミカさんも同じように感じてくれて嬉しいことです。(M. Y.)



★ 定例会二次会報告

ほしまつり終了後、いつもの新宿アルタ近くの居酒屋三平にて新人1人を迎えて総勢22名、いつものノミニュケーションが始まりました。

様子はいうまでもなく飲んで食べて賑やかに過ごしました。

二次会も無事に終わり、12名が引き続きカラオケに流れました。

ほしまつりの中、手話ダンスで踊ったキャンディーズの”年下の男の子”の曲が流れると、再びご本人さんがリズムよろしく歌って踊って楽しい一時を過ごす事が出来ました。(R)

ポルトガルの古い詩 (紹介者M)



ポルトガルの古い詩 (作者不詳)

年老いた私が ある日 今までの私と違っていても
どうか そのままの私のことを 理解してほしい
私が 服の上に食べ物をこぼしても 靴ひもを結び忘れても
あなたにいろんなことを教えたように
見守ってほしい

あなたと話すとき 同じ話を何回も何度も繰り返しても
その結末を どうかさえぎらずに うなずいてほしい
あなたにせがまれて 繰り返し読んだ絵本の暖かな結末は
いつも同じでも 私の心を平和にしてくれた
悲しいことではないんだ
消え去っていくように見える私の心へ
励ましのまなざしを 向けてほしい

楽しいひとときに 私が思わず下着を濡らしてしまったり
お風呂に入るのをいやがるときには
思い出してほしい あなたを追い回し 何度も着替えさせたり
様々な理由をつけていやがるあなたと
お風呂に入った懐かしい日々のことを
悲しいことではないのだ
旅立ちの前の 準備をしている私に
祝福の祈りを捧げてほしい

いずれ歯も弱り 飲み込むことさえ出来なくなるかもしれない
足も衰えて 立ち上がることすら出来なくなったら
あなたがか弱い足で立ち上がろうと 私に助けを求めたように
よろめく私に どうか あなたの手を 握らせてほしい

私の姿を見て悲しんだり 自分が無力だと思わないでほしい
あなたを抱きしめる力がないのを知るのは 辛いことだけど
私を理解して 支えてくれる心だけを持ってほしい
きっと それだけでそれだけで
私には勇気がわいてくるのです

あなたの人生の始まりに 私がしっかりと付き添ったように
私の人生の終わりに 少しだけ付き添ってほしい
あなたが生まれてくれたことで 私が受けた多くの喜びと
あなたに対する変わらぬ愛を持って 笑顔で答えたい

私の愛する 子供たちへ

人 今 人

東京都在住 F.S

最近「認知症の男性が列車にひかれて亡くなり、遺族に対して鉄道会社への賠償命令の判決が出された」というニュースが話題になった。私も無関心ではいられず、夫が同じように列車にひかれて亡くなった日の事を思い出した。

夫は57歳で「側頭葉性ピック病」と診断され、徐々に言葉の意味や文字が分からなくなった。

唯一の楽しみは散歩だけとなり、朝から夕方まで毎日、毎日歩き続けた。前日に地図で下調べをし、天気予報をチェックしていた。帰宅すると地図を広げてその日歩いたコースを指でなぞって教えてくれた。時々立ち入り禁止の場所に入り込んだり、無賃乗車で警察に保護されたが、翌日から何事も無かったかのように出かけて行った。

そんな中、夕方になっても帰らず朝になってやっと帰ってきたことがあり、それからはGPS端末（ココセコム）をポケットに忍ばせるようになった。何度か、夜中ずっと歩き続け朝帰って来た事があったが、GPSを使って居場所を確認していた。

その頃の夫はまだ、食事、入浴、着替え、排泄など何とか自分で出来ていたし、散歩を止めない限りは穏やかだったので、しばらく様子を見るつもりだった。

ところがあの日、GPSで追跡していたにもかかわらず、夫はトンネルの中へ入ってしまった。

6年半経った今も、思い出すたびに心は揺れる。無理にでも歩くのを止めさせるべきだったのだろうか。それとも仕方がないことだったのかと・・・

同じように、現在介護中の家族は日々迷っていらっしゃるのではないだろうか。そんな時、家族同士の体験談やアドバイスが何よりの助けになると思う。私も助けられた一人だ。

夫が亡くなった後、お世話になった彩星の会に恩返しのためにお手伝いをするようになったが、そこで、貴重な時間を割いて手弁当でこの会を何とか存続させようと頑張っている方々に出会った。

夫の病気がきっかけで親しくなれたことに不思議な縁を感じつつ、これからも裏方としてお手伝いしていきたいと考えている。





■7月定例会

日時：7月27日（日）13：00（受付：12：30～）

会場：首都大学東京荒川キャンパス（別添地図参照）

内容：①家族交流会（*全体相談会）

*今回は個別相談ではなく、家族交流会全体会において、皆さんから寄せられたご質問に対し、先生方にお答えいただくという形をとらせていただきます。

*別添地図裏のfax用紙に、質問・ご相談内容等を記載し、事務局宛お送りください。

■質問にお答えくださる先生がた（予定）

宮永和夫先生（南魚沼市立ゆきぐに大和病院 院長）比留間ちづ子先生（若年認知症社会参加支援センタージョイント 所長）小山恵子先生（楓の森メンタルクリニック 院長）勝野とわ子先生（首都大学東京健康福祉学部 教授）木舟雅子先生（医療ソーシャルワーカー）牧野史子氏（介護者サポートネットワークセンターアラジン 理事長）小野寺敦志先生（国際医療福祉大学大学院 准教授）干場功（若年認知症家族会・彩星の会 顧問）

②本人交流会 暑い夏を元気に楽しく乗り越えよう

（「ほし市場」で季節野菜の販売／ダンスカフェ・歌声喫茶《予定》）

参加費：お一人500円

申し込み：ご本人同伴のかたは、人数把握のため事務局まで必ずお知らせください。

電話番号：03-5919-4185

■彩星の会『秋の旅行』のお知らせ

日時：11月15（土）～16（日）東京駅集合（午後）*ホテル送迎バス

行先：千葉県房総半島 白子温泉リゾートホテル「サンシャイン白子」

費用：一人20,000円（昼食代、有料道路料金、観光入場料、宴会代等諸経費込）

申し込み：定員30名。受付随時。事務局までお電話かfaxでお申込みください。お待ちしております！

★事務局よりお願い★ H26 年度会費のご納入をよろしくお願ひします！！！！

■ご相談・ご入会は 彩星の会事務局 までご連絡ください*

*8月9日～17日はお盆休みのためお休みをいただきます。

【相談日】月、水、金 10時30分～17時

電話：03-5919-4185 FAX：03-5368-1956

携帯電話：080-5005-5298（相談室：干場）

e-mail：hoshinokai@star2003.jp HP：<http://www5.ocn.ne.jp/~star2003>

■年会費 家族会員5,000円 賛助会員A5,000円/B3,000円/C10,000円

■お申込み（ご入金）は下記振替口座宛てにメッセージを添えてお願いします。

郵便振替口座番号：00170-7-463332 加入者名：若年認知症家族会・彩星の会



編集後記

サッカーワールドカップ。テレビ報道を通して垣間見たブラジルという国。驚きの連続だった。スタジアムの熱狂の裏側にあるもう一つのブラジルを、今度チャンスがあったら観に行きたいと思った。(K)